

芭蕉

江戸時代の俳人

奥の細道の行脚で平泉を訪れた

義経最期の地 高館を訪れ

『夏草や兵どもが夢の跡』を

中尊寺金色堂では

『五月雨の降残してや光堂』と詠んだ



西行

平安時代の歌人



藤原氏全盛期に二度平泉を訪れた

東大寺大仏殿再建の資金勸進にも訪れている

当時東稲山の一万本の桜を詠んだ

『ききもせず たばしね山の桜花 吉野の外にかゝるべしとは』

古都ひらいずみガイドの会について

【概要】

平成15年8月 設立
 平泉を訪れる旅人を温かく迎え、平泉の歴史、文化、自然、風土を中心にガイドすることをモットーに、平均年齢70歳の地元有志の皆様をご案内いたします。平泉へお立ち寄りの際はぜひ、ご利用ください。

【料金】

- 2時間まで …………… 3,500円
- 超過1時間に付き …… 1,000円加算

ご案内は平泉町内全域

事前の予約制になりますので、まずはご連絡ください

TEL.0191-46-5710

受付は午前9時から午後4時まで

※当日のガイド手配はできませんのでご了承ください



平泉ゆかりの人 情報発信事業

無量光院跡となりの「街なか案内所」では、平泉に関する人物の紹介をしています。無料でコーヒーなども提供しておりますので、ぜひお立ち寄りください。

平成25年 緊急雇用創出事業

平泉ゆかりの人物

西行

義経

芭蕉

古都ひらいずみガイドの会



- | | | |
|-----|----|------|
| 三十一 | 頼朝 | 源朝の父 |
| 二十九 | 頼朝 | 源朝の父 |
| 二十七 | 頼朝 | 源朝の父 |
| 二十六 | 頼朝 | 源朝の父 |
| 二十四 | 頼朝 | 源朝の父 |
| 二十二 | 頼朝 | 源朝の父 |
| 二十 | 頼朝 | 源朝の父 |
- 源朝の父

源朝の父

源朝の父

源朝の父

源朝の父

源朝の父

源朝の父

源朝の父

源朝の父

源朝の父

源朝の父

源朝の父

源朝の父

源朝の父

源義経

源朝の父



源朝の父



源朝の父

源朝の父

源朝の父

源朝の父

源朝の父

源朝の父



松尾芭蕉

おくのほそみち マップ



芭蕉が平泉の町をどのよう
に歩いたか、同行した曾
良旅日記によって大筋のと
ころは判明できる。

一関の宿を巳の剋(十時)
に発って、申の上剋(四時)
には帰っている。

平泉の滞在時間はおおよ
ね四時間である。

この間、高館、衣川、衣
が関、中尊寺、光堂をめぐ
り、最後に無量光院跡に立
ち寄っている。

つまり往路は北上川の川
湊、柳之御所跡から高館へ
猫間が淵(現在は田園)と
いわれた里道を通り、高館
から中尊寺へ行ったと想定
される。



おくのほそみち ミニ行脚

松尾芭蕉が歩いたとされる道
順をたどって、平泉をご案内い
たします。

コース

※徒歩でのご案内です

スタート

平泉駅前

柳之御所遺跡

高館

中尊寺

無量光院跡

■ 所要時間 約4時間

■ 参加料金 5,500円

※当日受付は承っておりませんのでご
了承ください



芭蕉が歩いたと
される道



平泉を訪れた人々

菅江真澄、頼三樹三郎、宮沢賢治、高浜虚子、北原白秋、
吉川英治、斉藤茂吉、加藤楸邨、山下清、棟方志功、
大佛次郎、ドナルド・キーン等多くの人々が訪れている

【菅江真澄】

江戸時代後期に平泉を訪れ、紀行
『かすむ駒形』を記した。

【加藤楸邨】俳人

「寒菴」主宰
『邯鄲やみちのおくなる一晚歌』

【宮沢賢治】

岩手県花巻市生まれ
「中尊寺」を詠んだ

【土岐善麿】歌人、国語学者

能「秀衡」を詞章、西行歌碑の揮毫

【藤島亥治郎】建築史家

昭和二十九年「平泉史跡調査会」を
つくり、毛越寺・中尊寺を発掘調
査し整備・研究に努めた

【今東光】作家

(法名「今春聴」)
昭和四十一年五月中尊寺の貫首に
任じられ、国宝金色堂の昭和大修
理に努めた

【津田左右吉】日本文学者

昭和二十五年まで平泉に疎開し、
歴史学研究会会長を務めた
平泉小学校校歌を作詞した

【瀬戸内晴美】作家

(法名「寂聴」)
東光の貫首当時昭和四十五年、中
尊寺で出家、得度した
「春聴」の一字をとって「寂聴」と法
名した

中尊寺

宮沢賢治

七重の舍利の小塔に
蓋なすや緑の燐光
大盗は銀のかたびら
おろがむとまづ膝だてば
緒のまなこたゞつぶらにて
もろの眩映えかゞやけり
手触れ得ね舍利の宝塔
大盗は礼して没ゆる

